



32 葛細道時繪文台・硯箱

一具

桃山時代(十六世紀)

(文台) 高九・二 幅五九・〇 奥行三四・五
(硯箱) 高七・〇 縦二九・〇 横二六・九

この作品は、旧桂宮家最後の当主であった淑子内親王が薨去される以前の明治九年八月に宮家より明治天皇に献上されたものである。江戸時代後期に桂別業に飾られた記録が残っており、調度の品として大切にされながら伝えられてきたことが窺える。

この文台と硯箱は、『伊勢物語』第九段、在原業平の東下りの一節を意匠化したものである。業平が駿河国の宇津山において都へ向かう修験者に出会い、都の女のもとへの文を彼に託するという場面で、文台と硯箱のいずれもの表面全体に山々と雲層の間に生い茂る葛の葉(宇津山)を表し、その中に笈(修験者)と結文(文)が配される。総体を沃懸地とし、金高時絵、金・銀の金貝、金・銀切金、彫金の嵌装、付描といった技法を駆使して華麗な作品に仕上げている。

「葛細道」の意匠の文台・硯箱は、室町時代の将軍・足利義政が好んで使用したといわれるものの一つで、この意匠の品は、豊臣秀吉が義政好みの品を模して幾つか製作させて諸公に贈ったという伝承のものにあたる。旧桂宮家に何時から伝わってきたのかを明確にする史料はないが、秀吉から初代智仁親王に贈られたものである可能性も否定はできない。



文台(上面)



硯箱

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

旧桂宮家伝来の美術——雅と華麗

三の丸尚蔵館展覧会図録 No.13

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 大塚巧藝社

翻訳 鶴岡厚生

発行 宮内庁

平成八年九月二十一日発行

© 1996, Museum of the Imperial Collections